

# センター事業活用事例

ふるさと応援ナビゲーター

## 新業の概念を超えて新事業着手 着目した新商材を独占的に販売



ブライトボックスの説明をする浅利紀久雄取締役常務(左)と佐々木雄大制作部長。ブライトボックスのデザインと印刷、プログラムを一体で内製できるのがプラネットの強み。

### 株式会社プラネット

企画・デザイン・印刷・映像制作など、主にソフトの分野で事業展開を行ってきた企業が、更なる社業の伸張を目指してハードの分野にも進出。着目した商品力の高い二つの新商材を先行的かつ独占的に取り扱うことで、地元主体だったこれまでの商圈を東日本一円まで拡大して展開する。

### 株式会社プラネット

〒010-0971 秋田県秋田市八橋三和町19-38  
Tel. 018-883-5070  
Fax.018-883-5071  
<http://www.planet-akita.co.jp/>

### 業態の枠を超えて新規事業に着手

秋田市の株式会社プラネットは昭和60年に印刷製版業で創業した企業。業界を取り巻く環境は厳しく、デザイン・印刷関連以外の新規事業の立ち上げにも積極的に取り組んできた。

その一環として昨年夏から事業化したのが、「ブライトボックス」という商品名のLED看板の販売だ。「ブライトボックス」は、デザインを施した半透明のシートの背面にフルカラーのLEDを配し、それをプログラムで複雑に点滅させることによって動画に近い繊細な表現を可能にした新感覚の発光看板だ。

### 販路開拓にセンターの制度を利用

システム自体は韓国の企業が開

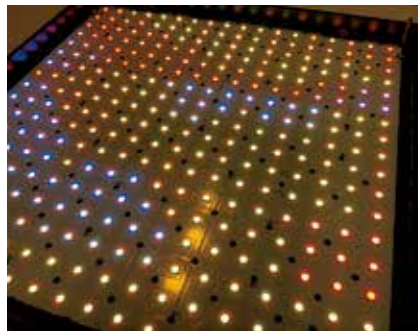
発したもの。プラネットの佐々木雄大制作部長は昨年韓国企業でLEDの点滅プログラムの研修を受けてきた。現時点では国内でこのプログラムを出来るのはプラネットの2名しかいない。ボックスの表面に貼るシートはプラネットのデザインと印刷の部門で内製出来るのも強みになっている。

「問題は販路の開拓だったんですが、あきた企業活性化センターの“ふるさと応援ナビゲーター”の制度(※脚注参照)を利用させてもらって、店舗施工やディスプレイを得意とする東京の大手デザイン会社を紹介されています。新規性の高い製品として関心を持ってもらっています」(浅利紀久雄取締役常務)

### 今後需要が見込まれる防災用品も

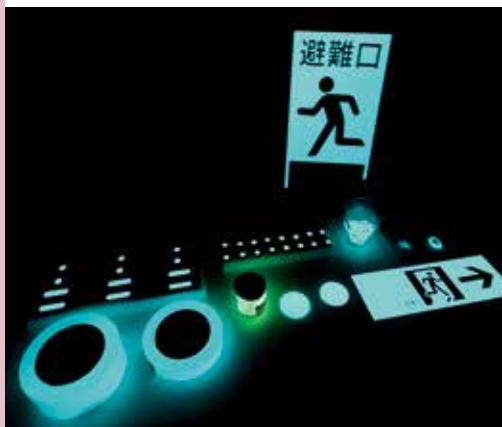
プラネットで展開中のもう一つの新規事業が、蓄光製品の販売。

蓄光とは、文字通り外光や人工光の光を蓄えて暗闇でも発光する製品の性質を指し、時計の文字盤などにも使用されている。従来使用されている黄緑色蓄光顔料とは異なり、プラネットが扱うのは青緑色蓄光製品。10時間以上の長い発光能力があり、耐水性にも優れているので野外の避難誘導看板などにも好適な



ブライトボックスのベースは韓国製。プログラムでLEDの発光を無限に表現できる。(写真上)国内でブライトボックスのプログラムが出来るのは佐々木部長含めてプラネットの社員2名のみ。(写真中)ブライトボックスのシート印刷にも使われる特殊印刷機(UVプリンター)は県内ではプラネットのみの導入。(写真下)

素材になっている。震災以降、各地で災害への備えの意識が高まっている時だけに、時宜を得た商材と言えるだろう。



蓄光製品は防災用品として今後の普及が期待されている。暗闇でも電源などなしに10時間以上自発光する。

[脚注]ふるさと応援ナビゲーターとは秋田にゆかりのある首都圏等企業者及び企業OBで構成する数十名の専門分野スペシャリストが、秋田の企業がつくった新商品の具体的な販路開拓を支援する制度。